

## 2019年度 所員業績リスト

### ■浅野倫子

<論文> (いずれも査読あり)

Uno, K., Asano, M., Kadowaki, H., & Yokosawa, K. (in press). Grapheme-color associations can transfer to novel graphemes when synesthetic colors function as grapheme “discriminating markers”. *Psychonomic Bulletin & Review*. doi:10.3758/s13423-020-01732-9

Saji, N., Imai, M., & Asano, M. (2020). Acquisition of the meaning of the word *orange* requires understanding of the meanings of *red*, *pink*, and *purple*: Constructing a lexicon as a connected system. *Cognitive Science*, 44, e12813. doi: 10.1111/cogs.12813

Asano, M., Takahashi, S., Tsushiro, T., & Yokosawa, K. (2019). Synaesthetic colour associations for Japanese Kanji characters: from the perspective of grapheme learning. *Philosophical Transactions of the Royal Society B*, 374: 20180349. doi: 10.1098/rstb.2018.0349

松本晃・浅野倫子・松永美希 (2019) . ネガティブな反すうと内向き／外向き分割的注意機能との関連. 感情心理学研究, 27(1), 20-30. doi: 10.4092/jsre.27.1\_20

永井淳一・横澤一彦・浅野倫子 (2019) . 非共感覚者が示すかな文字と色の対応付けとその規則性. 認知科学, 26(4), 426-439. doi: 10.11225/jcss.26.426

熊倉恵梨香・信田拓也・浅野倫子・横澤一彦 (2019) . 文化的な構えが色嗜好に与える影響. 基礎心理学研究, 38(1), 26-32. doi:10.14947/psychono.38.4

Yang, J., Asano, M., Kanazawa, S., Yamaguchi, M. K., & Imai, M. (2019). Sound symbolism processing is lateralized to the right temporal region in the prelinguistic infant brain. *Scientific Reports*, 9, Article number: 13435, 1-10. doi:10.1038/s41598-019-49917-0

<依頼講演>

浅野倫子 (2020). 色字共感覚：色と文字と学習の結びつき. 日本基礎心理学会 2019年度第2回フォーラム「共感覚と色情報処理」, 新潟 (2020年1月25日).

浅野倫子 (2019). 色字共感覚とそのメカニズム. 第11回多感覚研究会 チュートリアル講演, 東京 (2019年12月14日-15日).

浅野倫子 (2019). 共感覚における色字対応づけのダイナミクス. 生理学研究所研究会「脳神経ダイナミクスの可視化と制御」, 岡崎 (2019年7月16日) .

<学会発表> (いずれも査読なし)

張馨月, 浅野倫子. (2019). 視聴覚情報の感情が視聴覚コンテンツに対する没入感に与える影響. 日本基礎心理学会第38回大会, 神戸 (2019年11月30日).

浅野倫子・日高聡太・樋口麻衣子・日野美紀・後藤聡 (2019). 日常の心理ストレスにおける生理学のおよび主観的指標と認知的制御との関係性に関する探索的検討. 日本心理学会第83回大会, 2D-046, 大阪 (2019年9月12日).

### ■江川隆男

<著作>

江川隆男『すべてはつねに別のものである——〈身体 - 戦争機械〉論——』、河出書房新社、2019年8月、全262頁

<書評>

江川隆男「一冊の書物は特異性を有しうるか（秋保亘『スピノザ——力の存在論と生の哲学』、法政大学出版局、2019年）」、図書新聞、3401号、2019年6月1日、4頁

<合評会>

江川隆男『スピノザ『エチカ』講義——批判と創造の思考のために』（法政大学出版、2019年）、主催：スピノザ協会、上野修（司会）、鈴木泉、平井靖史（コメンテーター）、於 東京大学・本郷キャンパス、2019年9月8日

<講演>

江川隆男「〈批判／臨床〉の並行論について——『意味の論理学』における一義性の思考」、『意味の論理学』出版50周年特別企画「『意味の論理学』を本質変形する」、主催：秋田大学教育文化学部小倉研究室、ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリ、於 慶応義塾大学・三田キャンパス、2019年12月7日

<その他> 自著の韓国語版

존재와 차이 들뢰즈의 선형적 경험론 에가와 다카오 저/이규원 역|그린비|2019년 1월 리좀(RHIZOME)총서- II-06 (原書：江川隆男『存在と差異——ドゥルーズの超越論的経験論』、知泉書館、2003年)

죽음의 철학 에가와 다카오 저/이규원 역|그린비|2019년 12월 리좀((RHIZOME)총서-II-08 (原書：江川隆男『死の哲学』、河出書房新社、2005年)

■大石幸二

<論文>

脇貴典・須藤邦彦・大石幸二 (2019) . 対人関係スキルを含む行動コンサルタント養成トレーニング—コンサルテーションスキルの獲得およびコンサルティによる評価の視点から— 特殊教育学研究, 56(4), 219-230. (2018年12月31日発行)

中内麻美・須藤邦彦・渡邊孝継・竹森亜美・豊田真季・大石幸二 (2019) . 発達障害児の言語表出と実行機能の行動評価—自己調節を促進するために— 星美学園短期大学研究論叢, 51, 1-11. (2019年2月28日)

中内麻美・藤島瑠利子・大石幸二 (2019) . ミラーリング手続きによる自閉スペクトラム症児の対人行動の促進. 発達障害研究, 41(1), 72-79. (2019年5月31日発行)

大石幸二 (2019) . 自閉スペクトラム症児における社会的健康をめぐる展望—わが国の文献調査にもとづく臨床的研究の知見と課題— 人間関係学研究, 24(1), 25-32. (2019年12月28日発行)

大石幸二 (2020) . わが国における学校を舞台とする積極的な行動支援 (SWPBIS) の現在. 発達障害研究, 41(3), 193-195. (2019年11月30日発行)

豊田真季・須藤邦彦・渡邊孝継・金谷裕香・大石幸二 (2019) . 自閉スペクトラム症児の他者感情推測促進に関する応用行動分析的介入—“情動的実行機能 (Hot EF)”に着目した社会的情報処理改善プログラムの検討— 発達研究 (発達科学研究教育センター紀要) , 33, 153-157. (2020年3月31日発行)

<著書> (翻訳を含む)

日本行動分析学会編 (2019) . 行動分析学事典 (大石幸二担当: 「セルフ・コントロール (自己制御)」「行動コンサルテーション」). 丸善出版. (2019年4月30日刊行)

大石幸二監訳 (2019) . ビジュアルブック ASD の君へーラクな気持ちになるためのヒント集一. Shaul, J. (2019) . The ASD Feel Better Book: A Visual Guide to Help Brain and Body for Children on the Autism Spectrum Disorder. 学苑社. (2019年5月1日刊行)

大石幸二監修 (2020) 先生のための保護者相談ハンドブックー配慮を要する子どもの保護者とつながる3つの技術一. 学苑社 (2020年1月20日刊行)

<学会発表>

神尾陽子・加藤永歳・高橋脩・中島洋子・藤岡宏・安達潤・山本彩・大石幸二・田中裕一 (2019) . 地域の発達障害支援における多職種連携シリーズ第3弾: 最初の診断を行うことの意味を多職種連携支援の観点から問う. 日本発達障害学会第54回研究大会. 学会企画シンポジウム.

大石幸二 (2019) . 自閉スペクトラム症 (ASD) 児のストレスを低減するためにー唾液コルチゾール濃度の測定による評価の試み (予備的研究) 一. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学; 東広島キャンパス), P11-38.

下山真衣・濱嶋健二・山崎福太郎・大石幸二 (2019) . 生徒が主体的に学ぶ授業づくりの実際. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学; 東広島キャンパス), 自主シンポジウム 3-10.

竹森亜美・大石幸二 (2019) . 書字における力加減の調整に焦点を当てた介入の検討. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学; 東広島キャンパス), P15-36.

出野由花・竹森亜美・山田圭祐・大石幸二 (2019) . 知的発達障害児の自己選択・自己決定を促す条件の検討. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学; 東広島キャンパス), P7-29.

山田圭祐・竹森亜美・出野由花・大石幸二 (2019) . 知的障害児の会話行動の流暢性に関する支援方法の検討. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学; 東広島キャンパス), P7-28.

遊馬結・大石幸二 (2019) . ソーシャルストーリーTM を用いた家庭での支援ーペアレント・トレーニングとの比較一. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学; 東広島キャンパス), P6-17.

秋元響・大石幸二 (2019) . 逆模倣が直観的心理化に及ぼす影響の評価ー自閉スペクトラム症児を対象として一. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学; 東広島キャンパス), P5-23.

馬着達也・大石幸二 (2019) . 自閉スペクトラム障害傾向を持つ大学生の自己理解ー「自己価値観」を視座とする分析一. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学; 東広島キャンパス), P5-26.

- 高辻穂香・太石幸二 (2019) . 発達障害児支援において児童の良い反応を引き出す要因の検討—関わり柔軟性をどのようにアセスメントするか—. 日本特殊教育学会第 57 回大会 (広島大学; 東広島キャンパス) , P6-12.
- 吉野有紀・太石幸二 (2019) . 発達障害傾向のある人の周囲にいる人の関わり方の検討. 日本特殊教育学会第 57 回大会 (広島大学; 東広島キャンパス) , P6-11.
- 金谷裕香・太石幸二 (2019) . 神経発達症児をもつ母親の育児ストレス軽減を目指して—養育知識に着目したペアレント・トレーニング—. 日本特殊教育学会第 57 回大会 (広島大学; 東広島キャンパス) , P6-10.
- 工藤寛也・太石幸二・若井広太郎 (2019) . 自閉症児への相互交渉型言語指導による問題行動低減の支援—ペアレント・トレーニングとの比較—. 日本特殊教育学会第 57 回大会 (広島大学; 東広島キャンパス) , P5-27.
- 和田恵・太石幸二 (2019) . 高機能自閉症児における命題的心理化の促進(1). 日本特殊教育学会第 57 回大会 (広島大学; 東広島キャンパス) , P6-9.
- 渡邊孝継・豊田真季・竹森亜美・太石幸二 (2019) . 自閉スペクトラム症児の分配行動に関する研究—対人葛藤場面における分配行動の種類増加—. 日本特殊教育学会第 57 回大会 (広島大学; 東広島キャンパス) , P5-25.

■大野久

<論文>

- 二宮克美・大野久・高木秀明・安藤嘉奈子 (2019)  
青年心理学における出版のあり方を考える (大会準備委員会企画シンポジウム)  
日本青年心理学会大会発表論文集 27, 20-22.

大野久 (2020) アイデンティティ概念再考 教職研究 (34) , 1-16.  
(査読あり)

■小口孝司

<学術論文> (査読あり)

- Kawakubo, A., & Oguchi, T. (in press). Happy Memories: Improved Subjective Happiness through Vacation Recollection. *Tourism Analysis*
- Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2019). Recovery experiences during vacations promote life satisfaction through creative behavior. *Tourism Management Perspectives*, 30, 240-250.
- Kawakubo, A., Bryant, B. F., Miyakawa, E., & Oguchi, T. (2019). Development and Validation of the Japanese version of the Savoring Beliefs Inventory (SBI-J). *Journal of Positive Psychology and Wellbeing*, 3, 119-136.
- Miyakawa, E., Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2019). Do People Who Travel More Perform Better at Work? *International Journal of Tourism Research*, 21, 427-436.

宮川えりか・小口孝司 (2020) 海外修学旅行がもたらす心理的効果 —高校生修学旅行者を対象とした縦断的調査から— 日本国際観光学会論文集, 27, 73-81.

<学会発表> (国際学会、査読あり)

Miyakawa, E., Jose, E. P., Bryant, B. F., & Oguchi, T. Investigating gender and age difference of savoring strategies among Japanese adults. 6th World Congress on Positive Psychology, Melbourne, Australia. (20 July, 2019)

Kawakubo, A., & Oguchi, T. Effects of memorable tourism experiences on well-being via daily recovery experiences. 25th Asia Pacific Tourism Conference, Da Nang, Vietnam. (2 July, 2019)

Miyakawa, E., & Oguchi, T. Family tourism elevates children's skill and parent's well-being. 25th Asia Pacific Tourism Conference, Da Nang, Vietnam. (2 July, 2019)

Kawakubo, A., & Oguchi, T. The role of savoring positive experiences: Effects of savoring beliefs on psychological well-being after vacation. 21st Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, New Orleans, U.S.A. (February, 2020, 採択, パンデミックにより発表中止)

<学会発表> (国内学会、査読なし)

宮川えりか・小口孝司 休みへの認識がリカバリー経験および well-being に及ぼす影響 日本社会心理学会第 60 回大会(2019 年 11 月 10 日, 立正大学)

宮川えりか・小口孝司 海外修学旅行がもたらす心理的効果 日本国際観光学会第 23 回全国大会(2019 年 10 月 19 日, 桜美林大学)

宮川えりか・小口孝司 就労者の余暇活動が well-being に及ぼす影響 産業・組織心理学会第 35 回大会(2019 年 8 月 31 日, 日本大学)

<その他> (査読なし)

小口孝司 (2019) 産学で「旅のチカラ」を解明し日本の活性化へ HIS Group Corporate Report 2020, 47.

## ■加藤千恵

<訳注>

松下道信責任編集、加藤千恵ほか訳注『中国道教史』(増訂本) 訳注稿第一篇、2019 年 3 月 31 日、平成 24~27 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(基盤研究C)) 研究課題「道教の成立およびその歴史的展開に関する総合的研究」(課題番:24520046 研究代表者:皇學館大学・松下道信)

<口頭発表>

加藤千恵「超脱的觀念與内丹修行者の身體觀」2019 年 6 月 28 日、於台湾・政治大学、當代東亞道家養生文化 國際學術研討會

加藤千恵「《悟真篇》來源考」2019 年 10 月 25 日、於台湾・正修科技大学、2019 宗教生命關懷國際學術研討會—宗教的人文關懷與生命哲學

加藤千恵「李涵虛的丹法與心的作用—以《黃庭内景經》爲中心」、2019 年 11 月 2~3 日、台湾・真理大学、第五回「臺灣道教」學術研討會—内丹西派的源流與發展

加藤千恵「身体宇宙の陰陽五行—煉丹術を中心に」、2019年11月23日、於タワーホール船堀、第47回日本伝統鍼灸学会学術大会—東京大会—

■Kavanagh, Christopher

<論文>

Kavanagh, C., Kapitány, R., Eka Putra, I., and Whitehouse, H. (*in press*) Exploring the pathways between transformative group experiences and identity fusion. *Frontiers in Psychology: Personality & Social Psychology*. [Advance publication version available at: <https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fpsyg.2020.01172/abstract>].

Kavanagh, C., Jong, J., Whitehouse, H. (*in press*) Ritual and religion as social technologies of cooperation. In Laurence J. Kirmayer, Shinobu Kitayama, Carol M. Worthman, Robert Lemelson, & Constance A. Cummings (Eds.) *Culture, Mind, Brain: Emerging Concepts, Models, Applications* (Chapter 11). Cambridge University Press: Cambridge.

Whitehouse, H., & Kavanagh, C. (*in press*) What is the role of ritual in binding communities together? In Justin Barrett (Ed.) *Handbook of the Cognitive Science of Religion*. Oxford University Press: Oxford.

Kavanagh, C., & Jong, J. (2020). Is Japan Religious? *Journal for the Study of Religion, Nature and Culture*. Vol. 14 (1). [Preprint available at: <https://doi.org/10.31234/osf.io/qyt95>]

Yustisia, W., Putra, I.E., Kavanagh, C., Whitehouse, H. & Rufaidah, A. (2020) The role of religious fundamentalism and tightness-looseness in promoting collective narcissism and extreme group behavior. *Psychology of Religion and Spirituality*, 12(2), 231-240. <http://dx.doi.org/10.1037/rel0000269>  
<https://psycnet.apa.org/fulltext/2019-22199-001.html>

Kapitány, R., Kavanagh, C., Buhrmester, M. D., Newson, M., & Whitehouse, H. (2020). Ritual, identity fusion, and the inauguration of president Trump: a pseudo-experiment of ritual modes theory. *Self and Identity*, 19(3), 293-323. <https://doi.org/10.1080/15298868.2019.1578686>

Jong, J., Halberstadt, J., Bluemke, M., Kavanagh, C., & Jackson, C. (2019). Death anxiety, exposure to death, mortuary preferences, and religiosity in five countries. *Scientific Data*, 6, 154. <https://doi.org/10.1038/s41597-019-0163-x>

<解説記事>

Kavanagh, C. (2019) Review: *Conjuring Asia: Magi, Orientalism and the Making of the Modern World* by Chris Goto-Jones. *Pacific Affairs*, 92(3), 553-555.

<学会発表>

Kavanagh, C. (Nov 2019) The Importance of Rituals (& Replications): Quasi-experimental evidence from Japanese Firewalking Festivals. [Presentation] *The 23rd Experimental Social Science Conference*. Meiji Gakuen University, Tokyo, Japan.

Kavanagh, C. (Sep 2019) [Invited Respondent] *Preservation of Kagura Performance Workshop, Citizen Orientated Digital Archive of Myths and Archaeology Project*. Shimane, Japan.

Kavanagh, C. (Sep 2019) Key Issues in Researching Religion in Japan.

[Presentation] *Symposium on Cognitive and Computational Approaches Religion and Folklore Studies*, Rikkyo University, Tokyo, Japan.

< 研究助成金 >

Topic: *The Consequences of Formal Education for Science and Religion in Japan*

Role: Principal Investigator

Grant: The Consequences of Formal Education for Science and Religion

Amount: \$150,000

Year(s) funded: 2020-2023

■ 嘉瀬貴祥

< 論文 >

Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (in press). Sensory processing sensitivity moderates the relationships between life skills and depressive tendencies in university students. *Japanese Psychological Research*, 62.

嘉瀬貴祥・上野雄己・島本好平・大石和男 (印刷中) . 高い Sense of Coherence を持つ者の日常生活における問題への対処にかかわる行動や思考の特徴—計量テキスト分析による質的検討— ストレス科学研究, 31.

嘉瀬貴祥・上野雄己 (2019) . Sense of Coherence による精神的健康の横断的・縦断的予測可能性の検討—線形回帰モデルと一般化加法モデルによる推定— パーソナリティ研究, 28, 175-178.

Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (2019). The effects of sensory-processing sensitivity and sense of coherence on depressive symptoms in university students. *Health Psychology Open*, 6, 1-5.

Kase, T., Ueno, Y., Shimamoto, K., & Oishi, K. (2019). Causal relationships between sense of coherence and life skills: Examining the short-term longitudinal data of Japanese youths. *Mental Health & Prevention*, 13, 14-20. (査読あり)

嘉瀬貴祥・上野雄己・下司忠大 (2019) . Dark Triad のライフスキルに対する関連—反社会的な性格特性の適応的, 不適応的側面に関する探索的検討— パーソナリティ研究, 27, 266-269. (査読あり)

Kase, T., Ueno, Y., & Oishi, K. (2018). The overlap of sense of coherence and the Big Five personality traits: A confirmatory study. *Health Psychology Open*, 5, 1-4. (査読あり)

嘉瀬貴祥・上野雄己・梶内大輝・島本好平 (2018) . パーソナリティ・プロトタイプにおける Resilients, Overcontrollers, Undercontrollers, およびその他のタイプの特徴—ライフスキルの高低に基づいた検討— パーソナリティ研究, 27, 164-167. (査読あり)

木村駿介・嘉瀬貴祥・大石和男 (2018) . 共食の質尺度の作成および精神的健康との関連 日本家政学会誌, 69, 439-447. (査読あり)

<学会発表>

- Yano, K., Kase, T., Oishi, K. (2020). Reinvestigating the relationships between sensory processing sensitivity and life skills among Japanese samples. *Society for Personality and Social Psychology 2020 Annual Convention* (2020年2月29日)
- 雲財啓・磯和壮太郎・嘉瀬貴祥・今井田貴裕・戸ヶ里泰典・福井義一 (2019) . 健康生成論再考その3—大学生対象の研究から探る SOC 研究の発展可能性— 日本健康心理学会第32回大会 (2019年9月28日)
- 川越敏和・嘉瀬貴祥・小野田慶一・山口修平 (2019) . 「やる気」とマインドワンダリングの関係 日本心理学会第83回大会 (2019年9月13日)
- 磯和壮太郎・今井田貴裕・雲財啓・嘉瀬貴祥・銅直優子 (2019) . 健康生成論再考その2—健康生成論研究の重要性と心理学的視点の必要性— 日本心理学会第83回大会 (2019年9月13日)
- Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (2019). Sense of Coherence moderates the relationship between sensory-processing sensitivity and depressive tendency. *The Society for Personality and Social Psychology's Annual Convention 2019* (2019年2月8日)
- 嘉瀬貴祥・奇二正彦・濁川孝志 (2018) . 自然体験の多寡を測定する尺度 (Survey for Nature Experience 2) の開発 日本トランスパーソナル心理学/精神医学会第19回学術大会 (2018年12月24日)
- 嘉瀬貴祥 (2018) . パーソナリティ・プロトタイプとその特徴—健康教育場面における性格特性による分類の活用についての検討— 一般社団法人日本学校保健学会第65回学術大会 (2018年12月2日)
- 嘉瀬貴祥 (2018) . 対人スキルは対人場面における批判的思考の使用判断に関わるか 日本社会心理学会第59回大会 (2018年8月28日)
- 嘉瀬貴祥・上野雄己 (2018) . パーソナリティとライフキャリア・レジリエンスの関係—パーソナリティ・プロトタイプの観点から— 日本パーソナリティ心理学会第27回大会 (2018年8月26日)
- Kiji, M., Kase, T., & Nigorikawa, T. (2018). Effects of star watching experiences on the sense of human's spirituality and on other psychological factors. *23th annual congress of the European College of Sport Science* (2018年7月5日)
- 嘉瀬貴祥・上野雄己・大石和男 (2018) . 首尾一貫感覚のライフキャリア・レジリエンスに対する関連の検討 日本健康心理学会第31回大会 (2018年6月23日)

■川越敏和

<論文> (査読あり)

- Kawagoe, T., Kihara, K., & Teramoto, W. (2020). Eastern observers cannot inhibit their gaze to eye and nose regions in face perception. *Consciousness and Cognition*, 79: 102881.
- Kawagoe, T., Onoda, K., & Yamaguchi, S. (2019). The neural correlates of “mind blanking”: When the mind goes away. *Human Brain Mapping*, 40:17, 4934-4940.



Nagase, A.M., Kawagoe, T., Yamaguchi, S., & Morita, K. (2019). Behavioral mechanisms for adaptive learned avoidance of mental effort. *Clinical Neurophysiology*, 130:10, e217-e218

(査読なし)

山口修平・小野田慶一・高吉宏幸・川越敏和. (2019). アパシーに関わる神経ネットワーク. *認知神経科学*, 21:1, 60-66,

<招待講演>

川越敏和. (2019). 安静時 fMRI の基礎と研究の実際. 『生涯発達と社会包摂研究会』認知神経科学セミナー, 京都大学大学院総合生存学館, 京都

<学会発表>

川越敏和. (2019) マインドワンダリングとマインドフルネス. 日本基礎心理学会多感覚研究会ワークショップ, 立教大学, 東京

Sugimoto, H., Kawagoe, T., & Otake-Matsuura, M. (2019). Resting State Functional Connectivity Patterns in Older Adults after the PICMOR Intervention Program: A Preliminary Report. The 49th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, McCormick Place, Chicago

Kawagoe, T., Kihara, K., & Teramoto, W. (2019). Easterners cannot inhibit fixations to nose region in face. Asia Pacific Conference on Vision, Ritsumeikan University, Osaka

川越敏和・嘉瀬貴祥・小野田慶一・山口修平. (2019) 「やる気」とマインドワンダリングの関係. 日本心理学会第 83 回大会, 立命館大学, 大阪.

川越敏和. (2019) 動機づけの神経基盤. 日本心理学会第 83 回大会シンポジウム, 立命館大学, 大阪.

## ■ 都築誉史

<学会発表>

Tsuzuki, T., & Chiba, I. (2019). A time-series saccades analysis of the attraction and compromise effects based on the final decision in multi-alternative decision making. *Subjective Probability, Utility, and Decision Making (SPUDM) 2019 (The European Association for Decision Making)*, Amsterdam, Netherlands (August 21, 2019).

Shimane, D., Tsuzuki, T., & Itoh, Y. (2019). Awareness of emotional stimuli in a video: Suppressed memory of the video. *Annual Conference of the European Association of Psychology and Law (EAPL) 2019*, Santiago de Compostela, Spain (July 19, 2019).

<研究論文> (査読あり)

Tsuzuki, T., Takeda, Y., & Chiba, I. (2019). Effortful processing reduces the attraction effect in multi-alternative decision making: An electrophysiological study using a task-irrelevant probe technique. *Frontiers in Psychology*, 10: e00896. doi: 10.3389/fpsyg.2019.00896 (9 pages)

<著書> (査読あり)

都築誉史 (印刷中). 判断と意思決定 (3章) 日本児童研究所 (監修) 児童心理学の進歩 2020 年版 (Vol. 59) 金子書房 pp. 51-82.

■中村秀之

<著書・単著>

中村秀之『暁のアーカイヴ——戦後日本映画の歴史的経験』東京大学出版会、2019年7月、全390頁。

<総説・解説記事・単独>

中村秀之「作家の死と観客の死、そして作品の死後の生——『暁のアーカイヴ』刊行に寄せて」、『UP』48巻10号、東京大学出版会、7-12頁、2019年10月（依頼）。

■日高聡太

<学会発表>（国際学会）

Suzuishi, Y., Kuroki, S., Hidaka, S. Effects of visual motion on tactile roughness perception do not appear with passive dynamic touch. IEEE World Haptics Conference 2019 (July, 11, 2019, Tokyo)

<学会発表>（国内学会）

日高聡太・Luigi Tamè・Matthew R. Longo. 触覚仮現運動軌道上で生じる知覚マスキング. 日本基礎心理学会第38回大会(2019年11月30日, 神戸大学)

鈴木陽介・黒木忍・日高聡太. 受動触における粗さ知覚は視覚運動情報によって変化しない. 日本基礎心理学会第38回大会(2019年11月30日, 神戸大学)

日高聡太・Luigi Tamè・Matthew R. Longo. 手の軸間で生じる触刺激に対する時間知覚の異方性. 日本心理学会第83回大会(2019年9月11日, 立命館大学)

■安田みどり

<著書>（分担執筆）

安田みどり(2019). 医療者－患者関係 日本健康心理学会（編） 健康心理学事典 pp.38-39. 丸善出版（2019年10月刊行）

■坂本真季

<論文>

中内麻美・須藤邦彦・渡邊孝継・竹森亜美・豊田(坂本)真季・大石幸二（2019）. 発達障害児の言語表出と実行機能の行動評価—自己調節を促進するために—. 星美学園短期大学研究論叢, 51, 1-11. （2019年2月28日）

坂本真季・須藤邦彦・渡邊孝継・金谷裕香・大石幸二（印刷中）. 自閉スペクトラム症児の他者感情推測促進に関する応用行動分析的介入—“情動的実行機能（Hot EF）”に着目した社会的情報処理改善プログラムの検討— 発達研究（発達科学研究教育センター紀要）

<著書>(翻訳を含む)

大石幸二監訳 (2019) . ビジュアルブック ASD の君へーラクな気持ちになるためのヒント集一. Shaul, J. (2019) . The ASD Feel Better Book: A Visual Guide to Help Brain and Body for Children on the Autism Spectrum Disorder . 学苑社. (坂本真季担当 : 「その1 ラクな気分とイヤな気分」, 「その3 呼吸をするときのちょっとしたコツ」) (2019年5月1日刊行)

<学会発表>

渡邊孝継・豊田(坂本)真季・竹森亜美・大石幸二 (2019) . 自閉スペクトラム症児の分配行動に関する研究ー対人葛藤場面における分配行動の種類増加ー. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学 ; 東広島キャンパス) , P5-25.

■竹内亜美

<論文>

中内麻美・須藤邦彦・渡邊孝継・竹森亜美・豊田真季・大石幸二 (2019) . 発達障害児の言語表出と実行機能の行動評価ー自己調節を促進するためにー. 星美学園短期大学研究論叢, 51, 1-11. (2019年2月28日)

<著書>(翻訳を含む)

大石幸二監訳 (2019) . ビジュアルブック ASD の君へーラクな気持ちになるためのヒント集一. (竹森亜美担当 : まえがき・はじめに) Shaul, J. (2019) . The ASD Feel Better Book: A Visual Guide to Help Brain and Body for Children on the Autism Spectrum Disorder. 学苑社. (2019年5月1日刊行)

竹森亜美 (2019) . 知的障害のある生徒が“実感”をもとに時間的見積もりをマネジメントする. 実践障害児教育, 1月号, 22-25. (2019年12月16日刊行)

竹森亜美・須田なつ美・染谷怜編著 (2020) . 先生のための保護者相談ハンドブックー配慮を要する子どもの保護者につながる3つの技術ー. 大石幸二監修, 学苑社. (2020年1月20日刊行)

<学会発表>

霜田浩信・井澤信三・五十嵐一徳・太田研・五味洋一・末永統・山本多佳実・竹森亜美・高浜浩二 (2019) . 知的障害・発達障害児へのセルフ・マネジメントによる支援 4. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学 ; 東広島キャンパス) , 自主シンポジウム, 4-7

竹森亜美・大石幸二 (2019) . 書字における力加減の調整に焦点を当てた介入の検討. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学 ; 東広島キャンパス) , P15-36.

出野由花・竹森亜美・山田圭祐・大石幸二 (2019) . 知的発達障害児の自己選択・自己決定を促す条件の検討. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学 ; 東広島キャンパス) , P7-29.

山田圭祐・竹森亜美・出野由花・大石幸二 (2019) . 知的障害児の会話行動の流暢性に関する支援方法の検討. 日本特殊教育学会第57回大会 (広島大学 ; 東広島キャンパス) , P7-28.

渡邊孝継・豊田真季・竹森亜美・大石幸二（2019）．自閉スペクトラム症児の分配行動に関する研究—対人葛藤場面における分配行動の種類増加—．日本特殊教育学会第57回大会（広島大学；東広島キャンパス），P5-25.

■出野由花

<学会発表>

出野由花・竹森亜美・山田圭祐・大石幸二（2019）．知的発達障害児の自己選択・自己決定を促す条件の検討．日本特殊教育学会第57回大会（広島大学；東広島キャンパス），P7-29.

山田圭祐・竹森亜美・出野由花・大石幸二（2019）．知的障害児の会話行動の流暢性に関する支援方法の検討．日本特殊教育学会第57回大会（広島大学；東広島キャンパス），P7-28.

■山田圭祐

<学会発表>

山田圭祐・竹森亜美・出野由花・大石幸二（2019）．知的障害児の会話行動の流暢性に関する支援方法の検討．日本特殊教育学会第57回大会（広島大学；東広島キャンパス），P7-28.

出野由花・竹森亜美・山田圭祐・大石幸二（2019）．知的発達障害児の自己選択・自己決定を促す条件の検討．日本特殊教育学会第57回大会（広島大学；東広島キャンパス），P7-29.